

第 104 回 金沢市都市計画審議会議事録

1. 日時

令和 7 年 2 月 27 日（木） 9:30～11:30

2. 場所

金沢市役所第二本庁舎 3 階 大研修室

3. 出席委員

①学識経験者

（各 50 音順）

井口 栄市	金沢市農業委員会長
片桐 由希子	金沢工業大学准教授
島田 明子	弁護士
竹村 裕樹	金城大学客員教授
俵 希實	北陸学院大学教授
中山 晶一郎	金沢大学教授
西田 哲次	金沢商工会議所常務理事
西野 辰哉	金沢大学教授
宮本 治郎	金沢経済同友会副代表幹事

②市議会議員

上田 雅大	金沢市議会副議長
坂本 泰広	金沢市議会総務常任委員長
中川 俊一	金沢市議会建設企業常任委員長

③関係行政機関

五十川 泰史	国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所長
桜井 亘	石川県土木部長（代理）
吉田 健一	石川県農林水産部長（代理）
西村 和市	石川県警察本部交通部長（代理）

④市民

甚田 和幸	金沢市町会連合会副会長
上田 久美子	金沢市校下婦人会連絡協議会副会長

(司会)

定刻となりましたので、只今より、第104回金沢市都市計画審議会を開会いたします。本日は計画案審議の県決定案件が4件、市決定案件が2件、その他案件が3件ございます。委員の皆様には十分にご審議をお願い申し上げます。

それでは、はじめに都市整備局長の高木より、ご挨拶を申し上げます。

(高木局長)

皆さまお疲れ様です。都市整備局長の高木でございます。委員の皆様には大変お忙しい中、この審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また日頃から本市の都市計画行政にご理解ご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

2月に入りましてからこの月末に至るまで、何度となく寒波に襲われまして、この間、市では雪害対策本部を設置しまして、除排雪の体制を強化してきましたけれども、ここに来てようやく収束してきたところでございます。多くの除排雪業者さん、それから市民の皆様にもご協力をいただきながら、小さなトラブルはあったにせよ、それほど大きな混乱はなく、何とかここまで来ることができたと思っております。

これからは、春の訪れが感じられる、3月を迎えるということになります。3月の中旬には、北陸新幹線金沢開業10周年と敦賀延伸1周年を迎えるということで、金沢駅におきまして、記念イベントが開催されることになっております。能登の応援にもつながっていかうということでございます。今後観光やビジネスを始めとした経済波及効果のさらなる高まりが期待されるところでございます。そのイベントが開催されるころには、兼六園の梅の花もちょうど見頃になるのではないかなと思っております。

また一昨日のことですけれども、新年度の当初予算案が議会に内示されたところでございます。来月から始まります、議会において議論がなされていくこととなりますけれども、令和7年度は、未来共創計画の実践2年目に当たるということで、計画に盛り込まれた各種施策をさらに前に進めていきますとともに、能登半島地震からの復旧復興も加速をさせていく、そういう内容となっております。議会でお認めいただいた上で、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

さて本日の審議会では、審議案件として、県決定分と市決定分合わせて6件、その他意見聴取をお願いしたい案件が3件ございます。委員の皆様にはそれぞれの分野から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

議事に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。お手元のタブレットをご確認ください。資料は、1枚目が次第、2枚目以降が議案書となっており、計31枚 ございます。不足はございませんでしょうか。

それでは、ここからは竹村会長に議事の進行をお願いしたいと存じます。竹村会長どうぞよろしくお願いいたします。

(竹村会長)

皆さんおはようございます。朝早い中、大変ご苦勞様です。

今ほど局長からもお話がありましたが、能登半島地震から1年以上経ちました。家屋の倒壊だけではなく、道路や上下水道、通信インフラなど、大変な被害を受けました。その上、豪雨災害があり、最近では豪雪など、本当に心が休まる間もないと思っています。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

これを都市計画に引き当ててみて、大きくふたつございまして、一つはこのような災害時に強いまちづくりを進めるべきだということで、例えば輪島などでも、朝市などを再生させるということでまちづくりが進むものであります。二つ目は、都市インフラの老朽化にどう対応していくかということで、長寿命化やリニューアルがありますが、先般、埼玉では大きな道路の陥没事故がありました。原因は、下にあった流域下水道管ではないかということも言われています。口径も大きなものでありましたけれども、これは金沢も他人事ではない話でして、昭和30年代から40年代に結構、下水道管の敷設をしております、長寿命化というのは特に災害と直結してくるところですので、大事なことだと思っています。また、老朽化でいうと、金沢市都市再緊急整備地域準備協議会がありました。駅前のホテルや日銀とか、金沢市都市計画審議会でも審議されました片町の再開発とか、こういったものが40年、50年と経過すると、都市としていかにリニューアルして、強靱なまちづくりをしていくか、そしてまた、どのように魅力を加えていくかといった、非常に大事な点も多いかと思っています。こういったことを視野に入れて、これからの都市計画、まちづくりを進めていけたらいいかなと思っています。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、事務局の報告によりますと、委員20名の内18名が出席しております。委員の半数以上が出席していますので、条例第5条第2項の規定に照らして、本会議は有効に成立しておりますことをご報告いたします。

次に、金沢市都市計画審議会運営要領第7条の規定により、議事録の署名委員を指名させていただきます。今回は、島田委員、宮本委員のお二方をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは早速議事に入りたいと思います。まず、議案第432号「金沢都市計画道路の変

更」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、議案第432号「金沢都市計画 道路の変更（3・4・46号 観音堂辰巳線）」について、ご説明いたします。議案書は2ページから4ページとなりますのでこちらのスクリーンと併せてご覧下さい。

こちらは今回変更の対象となる路線の位置図です。現在、都市計画決定されている3・4・46号観音堂涌波線は、昭和5年に出雲町から三口新町間を放射幹線として計画決定以降、市街地の交通円滑化や市街地を形成すべき地域の骨格となる道路として計画延長の変更がなされ、平成9年には観音堂町から上辰巳町までの延長約14,010mの路線となりました。令和3年には、犀川地区における土地区画整理事業の実施断念に伴い将来交通量の増加が見込めないことから、終点部のバイパス区間約3,920mを廃止し、現在は観音堂町ヌの部から涌波一丁目までの延長約10,090mの都市計画道路です。金沢市の市街地を流れる犀川と並行する道路であり、金沢外環状道路海側幹線を起点として、示野町、片町を経由し、山側幹線と交差したのち、涌波一丁目地内を終点とする、4車線、幅員18mの道路が整備されています。

今回の計画変更の概要について、ご説明いたします。議案書は2ページです。本路線の終点部涌波1丁目から続く市道及び県道は、金沢学院大学や金沢辰巳丘高校などの教育施設が位置する市街地と金沢外環状道路山側幹線を接続する道路ですが、歩道が狭小で不連続であり、かつ路肩も十分な幅員が確保されていません。このため、辰巳町イの部までの約3,500mについて、新たに両側歩道を有した車道2車線計画にて都市計画決定を行い、より安全で円滑な交通の確保を図るものです。

こちらは変更区間の拡大図です。議案書の3ページ、4ページと合わせてご覧ください。スクリーンの上の方に黒線で示しているのが、既決定区間であり、18mの幅員で整備済みです。赤線で示しているのが、今回の都市計画変更で延伸する区間で、涌波1丁目から永安町交差点までの市道区間約1.0kmと、永安町交差点から辰巳町イの部までの県道区間約2.5kmの計約3.5kmです。

こちらは市道区間の現況写真です。左下の①の写真は、既決定区間の終点部である涌波一丁目側から今回延伸する市道区間を撮影した写真です。写真の左側が山側になりますが、歩道の拡幅整備が一部進められています。真ん中の②の写真は、大道割バス停付近、右の③の写真は永安町交差点から市道区間を撮影した写真です。この区間は山側の片側歩道となっていますが、歩道の幅員は1.5mと狭小です。

こちらは県道区間の現況写真です。左上の④の写真は、永安町交差点付近を辰巳町側から撮影した写真です。歩道は川側にありますが幅員は狭小で、また、永安町のバス停は交差点に近接しています。左下の⑤の写真は、日吉神社周辺を辰巳町側から撮影した

写真です。川側の歩道は日吉神社前のT字路を境に途切れています。真ん中の⑥の写真は、末町交差点付近を永安町側から撮影した写真です。この区間は歩道がありません。右下の⑦の写真は、変更で終点となる辰巳町側から対象区間を撮影した写真です。終点となる辰巳町イの部は山側に歩道が整備されており、この歩道に接続する形で整備を行います。

今ほど見ていただいた通り、現道は歩道が狭小で不連続であり、路肩の幅員も不十分なため、歩行者・自転車・自動車が混在し、非常に危険な状況となっております。また、永安町交差点におきましては、通勤・通学時間帯の朝・夕に交通が集中することや、バスの停車時に後続車が追い越しできずに先詰まりになることにより辰巳側に渋滞がみられます。このため、今回新たに決定する区間については、道路拡幅により両側歩道を設置し、また、永安町交差点においては、辰巳方面から小立野方面へ向かう右折車線を伸ばし、現在複数あるバス停を集約したバス停車帯を設置する計画としています。

こちらは現道の幅員構成と計画の幅員構成を示しています。上の図が現況で、下の図が計画です。現況は総幅員8.0mの道路です。本路線の計画交通量は約7,900台、計画断面としては、車道部が幅員3mの2車線、停車帯及び自転車通行空間の1.5m、歩道2.5mを両側に設け、総幅員14.0mとする計画です。

続いて線形計画です。涌波一丁目から永安町交差点までの市道区間につきましては、山側に歩道が整備されており、また、永安町交差点付近では県道倉谷土清水線と近接していることから、既存の歩道や、進められている歩道の拡幅事業を活かしながら基本的には川側への拡幅とします。

永安町交差点から辰巳町までの県道区間につきましては、現在の車道をそのまま活かした道路線形とし、基本的には両側拡幅としますが、図の真ん中の区間約900mについては、比較的、駐車場や田畑が多い川側への拡幅とします。

続いて、渋滞対策として、永安町交差点の交差点計画について説明します。交差点付近に現在4箇所に分散しているバス停を2箇所に集約し、バス停車帯を設ける計画です。永安町のバス停は利用者が比較的多く、乗降に時間を要することから、歩道に切り込みを入れて後続車への影響を減らせる「バスベイ型」と呼ばれるバス停留所を設けることとします。バス停車帯の位置は、交差点の右折車線のための、滞留長45mと減速車線20mを確保し、交差点から65m離れた位置に計画しております。

車道2車線と歩道の間に3.5mの幅でバスが停車できるスペースを設けるため、バス停車帯となる延長約40mの区間については、総幅員が14m～18mに膨らむ形となります。

こちらは計画書の内容です。終点の位置は「金沢市辰巳町イの部」に、全長は約13,590mに変更となり、あわせて道路の名称は「3・4・46号観音堂涌波線」から、「3・4・46号観音堂辰巳線」に変更となります。

以上が、変更の内容です。

なお、本件につきまして、令和6年12月6日から12月20日までの2週間、公衆の縦覧に供しましたが、意見書の提出がなかったことをご報告いたします。

以上で、議案第432号の説明を終わります。

(竹村会長)

ありがとうございます。涌波から永安町までの市道と、永安町から辰巳町までの県道、3.5km延伸という計画です。何かご質問やご意見がありましたら、挙手して、よろしくお願いします。

(A委員)

この計画では歩道が少し確保されるということですが、永安町手前で小学生が交通事故にあった件がありましたが、歩道の拡幅によって、そういった事故への対策が講じられるという理解でよろしいのでしょうか。

(竹村会長)

確かに痛ましい事故がありましたけれど、きっかけなども含めて事務局から説明をお願いします。

(事務局)

具体的な道路の計画につきましては、県道部分は県の道路建設課、市道部分は市の道路建設課で進めておりますが、この間、地元の方々に対しましては、平成29年度に設置された、「県道倉谷土清水線の交通安全を考える会」で、この道路の計画についても、地元で一定の周知を図ってきており、本日の都市計画審議会を迎えました。

特に市道の部分の痛ましい事故の件につきましては、地元町会と市の道路管理課で話し合いを続けてきた中で、県道の整備にあわせて市もこの事業を進めていくということとなりました。事故もあったということもございますが、一連の路線として安全確保を図っていくということで進めておりますので、甚田委員のご指摘の通り、この計画で対応を図っていくという考え方でございます。

(竹村会長)

よろしいでしょうか。他に何かご意見、ご質問はありますか。

(B委員)

現地の状況を写真で見せていただきますと、1点目は、両側に家もあるような路線であることから、都市計画決定したとして、何十年も未着手のままにならないか気になる

ところですが、2点目は、先ほどの永安町交差点のところは渋滞しやすいと思ったのですが、混む箇所は、渋滞の解消のために部分的に車線数を増やすなどの計画はあるのでしょうか。

(竹村会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

説明冒頭の図でお示ししましたが、山側幹線から辰巳町に向けて、涌波一丁目までは幅員18.0m、4車線で整備しております。今回延伸する部分につきましては、先ほど断面構成を示した通り、なるべく新たな用地買収を少なくするために、現道を拡幅し、14.0mの構成で道路を作っていくということでございます。車道とすれば、基本的には上下1車線ずつの2車線道路となります。

都市計画決定をして何十年も未着手といった道路は市内にもありますが、こちらの道路は、今回決定をした後、近く事業認可を取って事業を進めていくことになります。また、沿線の土地等に一定の制限がかかることになりますので、建て替えの際にはセットバックをしていただくことで、事業を進めていくことになります。

渋滞の件につきましては、特に永安町交差点において、現状のバス停が上下方向で4箇所分散しており、また利用者も多いので、バスの停車時にはその後ろに待つ車で渋滞が発生している状況です。辰巳町側からまちなか方面へ向かう交通を処理するために、県道に向かう右折車線を設けます。さらに、滞留長を現状16mのところを45mに変更し、長めに確保することに加え、バス停車時にも後続の車両が通行できるように、バス停車帯の整備をするということとなっております。

これらにより、一定の渋滞対策ができると考えており、決定に向けて進めていきたいと考えております。

(竹村会長)

私も、過去に金沢学院大学に通っていましたが、永安町交差点が三叉路になっているため、朝の8時台は上下ともに大行列になっていました。夕方4時台ごろから、大学や高校もあり、バスが止まると交差点での追い越しもできずに、朝夕とも渋滞はひどかった記憶があります。

また当時、交通事故があったので、「県道倉谷土清水線の交通安全を考える会」に私も参加しており、道路を拡げるのは何年もの間困難だということで、苦肉の策ではありましたが、歩行者と自転車の安全地帯となるよう、緑のラインを引く応急措置をしました。これだけでも、交通事故が減った記憶があります。今回の件については現道拡幅と

ということで、人家もありますし、経費もかかる大変な計画だなと思います。

事業の手法やスケジュールについて、県の担当も来られていますので、ご説明いただければと思います。

(県道路建設課)

永安町交差点から辰巳町までの区間が県道になりまして、県はこの区間を担当します。

先ほどのご質問にも関係があるかと思いますが、今後の見通しについては、既に現在、都市計画決定の手続きに並行して、測量設計等を概略的に進めさせていただいております。都市計画決定がなされた後につきましては、道路幅などの具体の設計を進めるとともに、具体の調査をさせていただきたいと思っております。その後、作業を進めた上で、地元の方々に用地の提供をお願いし、工事に入ると考えております。何年までに整備するかということはお示しすることが難しいのですが、県道区間だけでも2.5kmある延長を一気に整備することは、予算や地元の協力といった面でなかなか難しいと考えています。

中央の900mについては、川側に人家が比較的少ない、ただ、車や自転車等もよく通行されているということで、この区間をまず第1期として取り組んでいきたいと考えております。併せて、先ほどからの説明にありました永安町交差点についても、並行して取り組んでいきたいと思っております。

(竹村会長)

ありがとうございます。今ほどの説明も含めて、全体を通して何かご質問なりご意見があれば、挙手してよろしく願います。

(C委員)

1点だけ確認させていただきたいのですが、街路樹の件について、既に整備されている4車線の区間については、街路樹があるかと思います。今回の計画区間については2車線になるということで、歩道の幅員が2.5mで予定されておりますが、街路樹がありますとその分狭くなると思います。例えば南部では、街路樹が比較的細かい間隔で植えられており、すごく育ってきた場合に、歩道が隆起したり、時期になると落葉したりと、近隣住民から苦情がくる現状があります。街路樹に対する考え方をお聞かせいただければと思います。

(竹村会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

本日お示ししました計画断面につきましては、県からの説明にもありましたとおり、現在概略の段階でございますので、今後、実施設計を進めていく中で街路樹に対する取扱いを吟味されていくとお聞きしております。

(県道路建設課)

基本的には、用地を提供いただいて拡張を進める事業になることと、周辺の環境、例えば辰巳用水が流れているだとか、比較的、緑があるといったことを踏まえると、この歩道幅員の中で街路樹を設けることは難しいのではないかと、今のところ考えております。今後、地元の方々の意見も踏まえて考えていきたいと思っております。

(竹村会長)

限られた空間ですのでなかなか厳しいですね。バスベイなどの下がった部分にスポット的に設けることとか可能かもしれないですね。事業を進める段階で検討いただければと思います。

他にご意見はありますか。

(伊藤氏 (代理))

警察本部の交通規制課長をしております伊藤と申します。

今ほど、甚田委員から、例の大道割で小学生児童が、道路横断時に事故にあい重体になるという事案の話がありましたが、事故箇所は、市道で片側歩道しかない状況で、両側に比較的新しい住宅がびっしり張り付いているところです。

小学生児童は、川側の歩道のないところに住宅があり、山側の歩道にまず渡り、小学校に行きたかったのだと思います。この事故を受けて、警察と市の土木局と対策を考えまして、市で横断歩道より川側の歩道のない部分の道路側溝に蓋をかけて、暫定的にはありますが、実質歩道化をしております。そして、大道割のバス停の部分については、市で用地買収し、バスベイであると同時に横断歩道を渡る歩行者の待つスペースとして整備しているところで、3月中には完成する予定です。

警察は何をするのかと言いますと、ようやく信号機の柱を建てるスペースが確保できましたので、現在工事発注をしております。3月中には押しボタン式信号機が、完成する予定となっております。

以上、参考までに報告です。

(竹村会長)

ありがとうございます。交通安全対策も、事故後も講じられてきたという説明でした。

(D委員)

道路のことで決まっていることがあれば教えていただきたいのですが、現行では自転車走行指導帯、計画では停車帯と自転車通行空間となっています。お聞きする限り、学校があり自転車通学の方が多くて、歩行者と自転車と車が入り乱れている状況かと思いますが、自転車通行空間というのは、具体的に、車道と自転車通行空間の間に何か白線などを引いて分ける形になるのか、現段階で計画されていることがあれば教えていただければと思います。

(竹村会長)

道路の専門的な表現もありますので、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

詳細な実施設計に関わる部分でもございますので、県道路建設課から回答します。

(県道路建設課)

車道と自転車通行空間の間には、少なくとも外側線（白線）は引くこととなります。現在は、緑のラインを引いている現状もありますので、更なる安全対策が必要かどうかも含めて、「県道倉谷土清水線の交通安全を考える会」のご意見も聞きながら、進めたいと考えております。

(D委員)

自転車と車の走行空間をなるべく分けて、車と自転車と歩行者の安全がそれぞれ確保できる形で計画していただきたいと思います。

(竹村会長)

他に、何かご意見ありますでしょうか。他にないようですので取りまとめさせていただきます。

只今、貴重なご意見をたくさんいただきましたので、今後事業を進めていく上で参考意見として取り扱っていただきたいと思います。こちらの案件については計画案どおり答申します。

続きまして、議案第 433 号から議案第 438 号までの 6 件については、関連しますので一括で説明いただきます。

なお、議案第 438 号「建築基準法第 52 条第 8 項第 1 号の規定による容積率の緩和を適用しない区域の指定」については、建築基準法に基づき、特定行政庁が市町村都市計画審議会の議を経て、容積率の緩和を適用しない区域を指定することができるものであり、

用途地域の変更に伴う当該区域の指定について、本審議会に付議されたものです。

事務局より説明をお願いします。

(事務局)

これからご説明する議案は 433 号から 438 号まで 6 件ございますが、この 6 件は関連がありますので、併せて順にご説明いたします。お手元の議案書は 6 ページから 27 ページまでとなっていますので、前方のスクリーンで内容をご確認いただきながら、併せて議案書をご覧ください。

こちらは今回の都市計画の変更を行う 3 地区の位置図です。大野地区と五郎島地区、戸水地区の 3 地区について、それぞれ変更を行います。

今回の変更の背景として、金沢港では、長期的視点に立った港の目指すべき姿を描く「金沢港将来ビジョン」が令和 6 年 3 月に策定され、現在、そのビジョンの実現に向け港湾計画の改訂作業が進められています。この港湾計画の改訂を背景に、都市計画についてもそれぞれ変更を行うものです。

それぞれの変更内容について、これからご説明させていただきます。

まずは、議案第 433 号「金沢都市計画 区域の変更」についてご説明いたします。議案書は 6 ページから 8 ページですので、前方のスクリーンと併せてご覧ください。

今回の変更で都市計画区域の変更を行う大野地区です。面積は 0.2ha です。

計画図です。今回の金沢都市計画区域の変更としては、港湾計画の改訂に伴い、かつて、ケーソンヤードとして水域であった部分を緑地に変更し、周辺の既存文化施設や緑地と一体となって金沢港の賑わい創出を図る土地利用に見直すこととしており、それにあわせて当該区域の計画的な整備、開発及び保全を図るため都市計画区域を 0.2ha 拡大するものです。変更後の区域の面積は都市計画区域が 0.2ha 増加しますが、小数点以下は四捨五入し 25,011ha となります。

以上が、議案第 433 号「金沢都市計画 区域の変更」です。

続きまして、議案第 434 号「金沢都市計画臨港地区の変更（金沢港臨港地区）」についてご説明いたします。議案書は 9 ページから 13 ページですので、前方のスクリーンと併せてご覧ください。

まず、現在の金沢港周辺の状況です。赤枠で示した部分、大野地区、五郎島地区、戸水地区について、臨港地区を変更します。変更に至る経緯及び理由は、議案書 13 ページに記載のとおり、金沢港では、コンテナ船の大型化やクルーズ船の寄港数の増加など、金沢港を取り巻く環境が変化していることから、港湾利用者や県民のニーズ、能登半島地震で直面した課題などを踏まえ、長期的視点に立った港の目指すべき姿を描く「金沢港将来ビジョン」が令和 6 年 3 月に策定され、現在、そのビジョンの実現に向け港湾計画の改訂作業が進められています。そこで、今回の港湾計画改訂にあわせて、臨港地区

を変更するものです。

続いて臨港地区について、ご説明いたします。臨港地区とは、都市計画法に基づき、港湾を管理運営するために定める地区であり、港湾としての機能が十分に発揮できるよう、船舶が利用する港湾施設が設置される「水域（港湾区域）」に接続して、貨物の取扱などの港湾活動を行う「陸域」を「臨港地区」と言います。

次に、位置図と変更内容です。図内に赤枠で示した部分が現行の臨港地区となっており、今回の臨港地区の変更では、大野地区で 0.2ha 追加、五郎島地区で 0.2ha の追加と 10.8ha の解除、戸水地区で 1.4ha を解除します。これにより、金沢港臨港地区の面積は、400.3ha から 388.5ha となり、議案書では四捨五入し 389ha としております。

続いて、計画図です。こちらの大野地区は、かつてケーソンヤードとして水域であった区域です。現在は埋め立てられ、周辺と同様の陸地となっています。当該箇所を埠頭用地及び緑地として、既存文化施設や緑地と一体となって金沢港の賑わい創出を図るため、新たに 0.2ha を臨港地区に追加します。

五郎島地区では、陸地部分の大部分は農地として利用されています。また、区域南側については、かつて陸地でしたが、岸壁の整備計画の際に彫り込まれ、現在水域となっています。今回の港湾計画改訂に伴い、五郎島地区では土地利用の実態や今後の港湾関連の利用が見込まれないことから、港湾の管理運営に必要な区域を見直し、0.2ha を追加し、10.8ha を解除します。

戸水地区においては、今回解除する部分には現状住宅が立ち並んでいます。土地利用の実態や今後の港湾関連の利用が見込まれないことから、港湾の管理運営に必要な区域を見直し、1.4ha を解除します。

以上が、議案第 434 号「金沢都市計画臨港地区の変更」の内容です。

続いて、議案第 435 号「金沢都市計画 区域区分の変更」と議案第 436 号「金沢都市計画用途地域の変更」について、併せてご説明いたします。議案書は 14 ページから 21 ページです。

こちらは今回の変更で区域区分及び用途地域を変更する地区です。変更する地区は、五郎島地区と大野地区の 2 箇所、面積は合わせて 3.4ha です。

こちらは現計画です。図内に赤線で囲まれた部分が今回区域区分を変更したうえで用途地域を変更する範囲です。現在、五郎島地区の 3.2ha は市街化調整区域であり、大野地区の 0.2ha は都市計画区域外です。

こちらは計画図です。五郎島地区については市街化調整区域から市街化区域へ区域区分を変更し、用途地域は周辺にあわせ工業地域とします。また、大野地区については、都市計画区域の拡大とあわせ、市街化区域へ編入し、用途地域は周辺に合わせて準工業地域とします。

区域区分の変更について、議案書は 17 ページです。区域区分は計画図のとおり変更し、

変更後の面積は、市街化区域が 3.4ha 増加し、市街化調整区域が 3.2ha 減少します。変更理由は、今回、港湾計画の改訂に伴い土地利用を見直すこととしており、それにあわせて、五郎島地区及び大野地区について区域区分の見直しを行うものです。

続いて用途地域の変更の計画書です。議案書は 20 ページ及び 21 ページです。今回の変更においては、住居系の用途地域については変更がありません。準工業地域、工業地域について、それぞれ面積を変更しております。用途地域の変更理由は、市街化区域への編入に伴い、五郎島地区及び大野地区において、周辺地区との一体的な土地利用の促進を図るため、新たに用途地域を指定するものです。

以上が議案第 435 号「金沢都市計画 区域区分の変更」及び議案第 436 号「金沢都市計画用途地域の変更」の内容です。

次に、議案第 437 号「金沢都市計画特別用途地区の変更（大規模集客施設制限地区）」及び議案第 438 号「建築基準法第 52 条第 8 項第 1 号の規定による容積率の緩和を適用しない区域の指定」について、併せてご説明いたします。議案書は 22 ページから 27 ページです。

こちらは位置図です。対象地区は、大野地区、変更面積は約 0.2ha です。

こちらは現計画です。赤枠で示した変更箇所について、現在は都市計画区域外であり、何も指定されていない状況です。

こちらは計画図です。今回大野地区において、赤線で囲まれた部分 0.2ha を準工業地域に指定することに伴い、「特別用途地区（大規模集客施設制限地区）」への追加と「建築基準法第 52 条第 8 項第 1 号の規定による容積率の緩和を適用しない区域」に指定します。

こちらは計画書です。議案書は 24 ページです。今回変更する「特別用途地区」とは、用途地域を補完するために、地区の特性に応じた規制の強化を図るものであり、本市では特別用途地区の種類のひとつに、床面積の合計が 10,000 m²を超える大規模集客施設を規制する大規模集客施設制限地区を定めています。中心市街地の活性化を図るとともに郊外地の大規模集客施設を抑制するために、既に第一、三種特別工業地区として指定している範囲を除く全ての準工業地域において、大規模集客施設制限地区を指定しています。

今回の変更理由としては、当該地区の市街化区域への編入により準工業地域を指定する区域について、大規模集客施設を抑制するため、「特別用途地区（大規模集客施設制限地区）」を指定するものです。よって、大規模集客施設制限地区について、0.2ha 追加とします。

以上が議案第 437 号「金沢都市計画特別用途地区の変更」の内容です。

続いて「建築基準法第 52 条第 8 項第 1 号の規定による容積率の緩和を適用しない区域」の指定です。議案書は 27 ページです。

建築基準法では表に示す用途地域において、住宅の用途に供する建築物については、条件を満たせば容積率を最大 1.5 倍まで緩和できるという制度があり、建築基準法第 52 条第 8 項第 1 号の規定により、都市計画審議会の議を経た場合には、この容積率の緩和を適用しない区域を指定できます。この容積緩和制度を活用した場合、指定容積率を大きく上回る大規模なマンション建築が可能となることから、日照や景観に関し周辺の住環境等に悪影響を与えることが懸念されます。そのため、本市におきましては、中心市街地の定住促進を図る観点から、現在、片町から国道 8 号線までの都心軸沿いの商業地域、約 108ha を除いた区域について、容積率の緩和を適用しない区域を指定しています。

今回の指定は、大野地区の用途地域の変更に伴い、準工業地域に追加する当該区域を「建築基準法第 52 条第 8 項第 1 号の規定による容積率の緩和を適用しない区域」に指定するものです。こちら、準工業地域において 0.2ha の増加としております。

以上が議案第 438 号「建築基準法第 52 条第 8 項第 1 号の規定による容積率の緩和を適用しない区域の指定」の内容です。

最後に、議案第 434 号「臨港地区の変更」、議案第 435 号「区域区分の変更」、議案第 436 号「用途地域の変更」、議案第 437 号「特別用途地区の変更」について、令和 7 年 2 月 7 日から 2 月 21 日までの 2 週間、公衆の縦覧に供しましたが、意見書の提出がなかったことをご報告いたします。

以上で説明を終わります。

(竹村会長)

ありがとうございます。いずれの案件も、大野地区、五郎島地区、戸水地区の港湾計画と関連した内容となっています。

これらについて、何かご質問なりご意見があれば、挙手してお願いします。

(C 委員)

臨港区域の変更について、今回説明いただいた中で、大野地区の 0.2ha については、水域になっていたところを賑わい創出を図るために新たに追加ということで理解しました。五郎島地区の追加する 0.2ha については、何かしらの予定があるのか、変更の理由をお聞かせいただきたいと思います。

(竹村会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

ご説明した案件すべてが、冒頭の説明でありましたとおり、現在進められている金沢

港の港湾計画の変更に伴うもので、都市計画として、その変更内容に整合を図るための都市計画決定でございます。

参考に全体の港湾計画の変更内容をお示ししますと、主な内容では、大浜の沖にコンテナターミナルを新たに追加するといったことがあります。今回お示した案件に関わるものと、大野地区では緑地の拡大、五郎島地区では港湾関連用地への変更、戸水地区における港湾関連用地など、港湾計画における土地利用計画の変更がございます。

港湾区域のうち陸地部分と、臨港地区が整合するよう、今回、都市計画の臨港地区を変更するものでございます。

五郎島地区の 0.2ha 部分をどのように利用していくかということは、今までは危険物取扱施設用地という位置づけになっており、一部では民間の鉄くずなどの一時的な置き場として利用されていた箇所もございますが、今回の港湾計画ではそういった土地利用ではなく、港湾関連用地として見直されるということでございます。

具体的な変更の内容については県港湾課から説明をしていただきたいと思います。

(県港湾課)

事務局からの説明のとおり、五郎島地区については、危険物を取り扱うという土地利用を港湾として考えていましたが、今回こちらを港湾関連用地ということで、今後の貨物の増大に備えまして、貿易であるとか、貨物の物流に関する土地利用に変更します。その際に、物流を支える道路である臨港道路を整備いたします。資料ではわかりにくいですが、五郎島の東側から通っている道路を今後延長し、北側の石油タンクがある区域までつなぐことを考えておりまして、その道路の計画を考慮した臨港地区の指定ということでございます。

(竹村会長)

よろしいでしょうか。他に何かご質問、ご意見ありますでしょうか。他にご意見ないようですので、取りまとめさせていただきます。

只今いただきましたご意見については、今後の事業を進める上で、参考意見として取り扱っていただき、計画案どおり答申します。

続きまして、事務局から案件結果報告を受けたいと思います。説明をお願いします。

(事務局)

案件結果報告について、ご説明いたします。議案書は 28 ページですので、前方のスクリーンと併せてご覧下さい。令和 6 年 11 月 29 日に開催しました第 103 回金沢市都市計画審議会でご審議いただいた、「議案第 431 号 金沢都市計画 ごみ処理場の変更（1 号西部リサイクルプラザ）」の金沢市決定案件についてご報告いたします。

「踏切道改良促進法」に基づき、通学児童等の歩行者の安全を確保するための「改良すべき踏切道」に指定された糸田道踏切道及びこれに接続する市道準幹線 515 号東力・増泉線の改良に伴う道路線形の変更により、当該施設の一部区域を道路用地とするため、区域を縮小し、面積を約 0.01ha 減ずるもの、としてご審議いただきましたこちらの案件につきましては、令和 6 年 12 月 23 日付け金沢市告示第 431 号で変更の告示がなされたことをご報告します。

以上で、案件結果報告の説明を終わります。

(竹村会長)

ありがとうございます。前回審議した案件の告示の報告でございました。何かご質問、ご意見等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(各委員意見等無し)

(竹村会長)

特にご意見ないようなので、案件結果報告を終わらせていただきます。

ここで一旦、進行を事務局へお返しいたします。

(司会)

これより先は、意思形成過程段階のものとなりますので、非公開とさせていただきます。申し訳ございませんが、報道関係の方は退席をお願いいたします。

— 以下、意思形成過程段階のため非公開 —